
Infinite Stratos 00

キラー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

I n f i n i t e S t r a t o s 0 0

【Nコード】

N 4 9 1 3 Z

【作者名】

キラー

【あらすじ】

突然起こってしまった首都直下地震によって『彼』は死んでしまった。

だが、それでも生きていたかった。どんなに醜くても、死ぬのがイヤだった。まだ何も成し遂げていないのに、死ぬのは……！

その思いに神が応えてくれたのか、『彼』は2度目の人生を生きることになった。……『インフィニット・ストラトス』の世界で、主人公・織斑一夏として。

そして、織斑一夏となった『彼』はとある天才科学者と同じ理由で他人を嫌っている少女、篠ノ之束が発案した計画に参加することになった。……人類を、変革へ導くための。

00 ニプロローグ（前書き）

この小説は、先ほど間違えて短編小説として投稿してしまった同名小説を連載小説として再投稿したものです。先ほどは間違えて投稿してしまい、すいませんでした。

00・プロローグ

……今日は何か嫌な予感がする。

そんなアホなことを感じながら俺は都市部にある大型の本屋に行く。え、俺の名前？ ただのしがない高校2年生だ。でもちゃんと名前はある。趣味はネットサーフィン、ゲーム、ラノベを読むこと、好きなアニメはたくさんあるが、ガンダムシリーズが好き。特に00シリーズ。好きなキャラは刹那・F・セイエイ。得意な科目は社会だ。ちなみに社会の中でも歴史が1番得意。

別に買うものは特に無かったけど、友達に進められたラノベ、『IS<インフィニット・ストラトス>』の1巻をラノベの販売エリアで見かけた。

友達からの評価は、『とにかくヒロインが可愛い!!』……だそうだ。何の参考にもならない……。

それでも読んでから読み続けるかを決めるか。

そう思った俺は特設売り場が形成されているところからISの1巻を手に取り、レジに……向かわなかった。その前にゲームの攻略本を見ていくことにしたんだ。なお、漫画は先週買ったばかりだったから見ないことにした。

ざっと見て、特に欲しいものはなし。ゲームの攻略本はネットのwikiがあるから買わなくても問題は無いしな。

「そんじゃ、レジに行くか」

なんとなく呟いてみた。どうせまた来れるしそろそろお暇いとまするか。そう思っていたから。

けど、もうこの日常に戻れないなんてこのときは思っていなかった。

本屋を出て数分、俺はISの1巻を歩きながら読んでいた。

これが意外と面白く、帰ったらISのアニメを某サイトで見るかとも思えた。それくらい俺には面白く思えたんだ。

そんなときだった。

地面が小刻みに揺れ始めた　地震だ！　それも、揺れ方がどんどん大きくなってきている。……もしかして、ニュースでやっていた首都直下地震が起こっているのか！？　けど、前の震災で東京が揺れたときよりも、少し大きく揺れている感じがする。……それでも震度は7〜8度だろうな。

周囲は騒ぎも同然、パニック状態になっている。

「嫌な予感、ってこれのことだったのか……！」

後悔したけど、もう遅い。俺はとにかく自分のできることを考えようとした。そのとき、上のほうで、ギシリ、と何かが鈍く動く音がした。

上を見ると、未完成のビルの鉄骨　おそらく、最小の物だろう　が地震の影響で揺れて、こっちまで落ちてきている！

周囲もすぐに気がついて、もう離れている。

だが、俺は逃げ遅れた。

だって、逃げようと思ったときには鉄骨がいくつもすぐ近くまで落ちてきていたから……。

こうして、俺は死に絶えようとしていた。体中に走る激しい痛みとともに　。

そして、死ぬ前に思ったこと。

俺はまだ、生きていたい！！
生きることへの、渴望だけだった。

真っ暗な世界に俺はいた。

それに気がついたが、そんなことはどうでもよかった。もう死ぬだろう……だからこの世界に俺の身を委ねよう。

俺が望んだことは何だった？

ふいに、そんなことが俺の脳裏に過ぎった。

……そうだ。俺が望んだこと。

俺はまだ生きていたい！！

まだ、俺は死にたくないんだ……！！

俺の望みが叶ったのか、漆黒の闇に覆われていた世界に光が灯った。やがてその光は闇を全て消し去り、俺を生に導いた。

そして、俺の目に映ったのは、どこにでもありそうな町の景色だった。

……どうも身体が小さいような気がした俺は視線を下にやる。見えたものは、毛布に包まっていた肌が少し浅黒い赤ん坊の身体
どうやら俺は、赤ん坊になったらしい……。

それにしても喋り方も若干おかしいような……まあいい。

で、わかる状況は1つ。……俺は生みの親に捨てられたようだ。

捨て子に転生 憑依か？ した俺はどうやって生きていけばいいんだ？ 確かに生きることが望んだが、こんな状況にしろとは頼んでないぞ。

しかも、今は雨が降っていて、とても寒い。赤ん坊のこの身体じや凍死する可能性がある……！！

と、そのとき俺の目の前をビニール傘を持って歩いていた黒髪の少女と俺の視線が交わる。……ん？ あの子、どこかで見た気が……。

そんなときに、彼女は俺に近づいてきた。

「どうしたの？ 何でこんなところにいるの？」

黒髪の少女は俺に微笑みかけながら聞いてきた。親に捨てられたらしい、そう言いたかったけど今は赤ん坊の身体だから喋れない。そこに、黒髪の少女の友達と思われる少女も傘をさしてやっている。

「ちーちゃんどうしたの？」

「あ、束。この子、捨てられたみたいなんだ。かわいそうで……」

「ならお父さんに相談してこの赤ちゃんを引き取る？」

「そうしようよ！ この子、なんだか両親に捨てられたときの私みたいで……見てられなかったんだ」

……この子も、両親に捨てられたのか。俺も生前は両親に捨てられて、それでも必死に生きてきた。でも、俺は誰にも助けてもらえなかったけど、この子は束って子の両親に助けてもらったみたいだな。

すると、黒髪の少女が俺を抱き上げて、

「じゃあ行こうよ束！」

「はい。それでこの子の名前はどするの？ 名前無いみたいだからつけてあげないと」

「そうだなあ……じゃあ、一夏っていう名前はどうか？」

「ちーちゃんのつけた名前なら何でも良いよ。よろしくね、いっくん！」

「じゃあ決まり！ きみの名前は一夏、織斑一夏だよ。よろしくね。私の名前は織斑千冬。こっちは篠ノ之束！」

自己紹介をしながら黒髪の少女、千冬は俺に笑いかけてきた。

そこで俺は気づいた。織斑千冬と篠ノ之束はISの登場人物……

そして一夏、というのは主人公の名前だったはずだ。……もしかして俺は、織斑一夏に転生したのか！？

……こうして、織斑^{おれ}一夏の新たな人生はスタートした。

00 ニプロローグ（後書き）

誤字脱字、おかしいところがあれば報告をお願いします。それと、よければ感想を下されると作者は嬉しいです。

別のユーザーで投稿している遊戯王の小説は、内容の構成が思ったよりも難しくなってしまう、早くてもクリスマス前後に投稿することになります。ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4913z/>

Infinite Stratos 00

2011年12月16日19時39分発行